

(お知らせ)

令和2年12月18日

防衛省

次期戦闘機（F-X）のインテグレーション支援に係る情報収集の結果及び次期戦闘機の開発に係る国際協力の方向性について

次期戦闘機（F-X）の開発に当たっては、米国のロッキード・マーチン社をインテグレーション支援の候補企業として選定するとともに、日米間の相互運用性（インターオペラビリティ）の確保のため、令和3年度から新たな事業を米国と協力して開始するなど、米国から必要な支援と協力を受けながら、我が国主導の開発を行うこととしました。

また、次期戦闘機のエンジン、搭載電子機器（アビオニクス）などの各システムについては、開発経費や技術リスクの低減のため、米国及び英国と引き続き協議を行い、協力の可能性を追求していきます。

（1）次期戦闘機のインテグレーション支援

次期戦闘機の開発については、開発リスクを低減するため、外国企業より、①ミッション・システム・インテグレーション、②運動性能とステルス性の両立、③コンピューター・シミュレーションを駆使した設計作業の3つの技術分野について支援を受けることとし、本年11月初めより、BAEシステムズ社、ボーイング社及びロッキード・マーチン社の3社から受領した情報提供書の分析・評価を行ってきました。今般、第5世代戦闘機の開発に豊富な経験を有するロッキード・マーチン社の提案が総合的に最も優れていると判断されたことから、同社をインテグレーション支援の候補企業として選定しました。今後、機体担当企業である三菱重工株式会社においてロッキード・マーチン社と契約締結に向けた協議を進めるとともに、ロッキード・マーチン社においては輸出許可を取得するための米国政府との調整を本格化することになります。

(2) インターオペラビリティの確保

将来の空対空戦闘の成否を決する重大な要素である日米間のインターオペラビリティを確保するため、令和3年度から次期戦闘機と米軍が連携するための将来のネットワークについて新たな事業(*)を開始するなど、米国政府及び米国企業と必要な協力を実施していきます。

(*) 事業名：ネットワーク構成検討

期間：令和3年度～令和4年度

予算：約12億円計上予定

事業概要：次期戦闘機の開発に当たり、日米間のインターオペラビリティの拡充を図るための、米国装備品とのデータリンク接続に係る研究事業

(3) 各システムの協力

次期戦闘機の開発経費や量産単価については、今後、構想設計作業の進捗に応じ、見積もりを確定していくこととしていますが、技術的信頼性を高め、これらの費用をできる限り低減していくといった観点から、次期戦闘機のエンジン、アビオニクスといったシステムについては引き続き米国及び英国と協議を重ね、協力の可能性を追求していきます。

(以上)